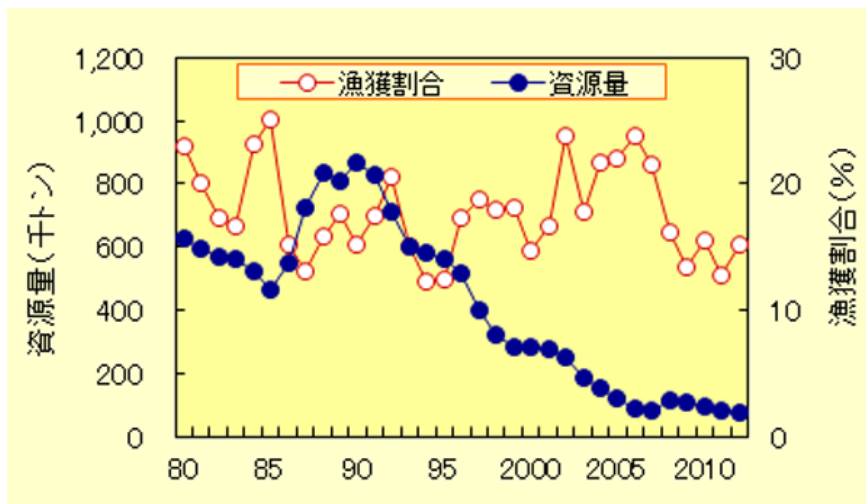


日本のスケトウダラ日本海北部系群の事例

1990年代から、加入の失敗により資源は減少。資源の減少に伴い、管理目標が下方修正されてきた。その上、ABCを上回るTACが設定されているために、資源の減少に歯止めがかからず、漁業の存続、漁村の存続が危ぶまれている。2000年以降、資源量の減少に従い、漁獲割合が上昇しており、漁獲枠規制が機能していないことが示唆される。

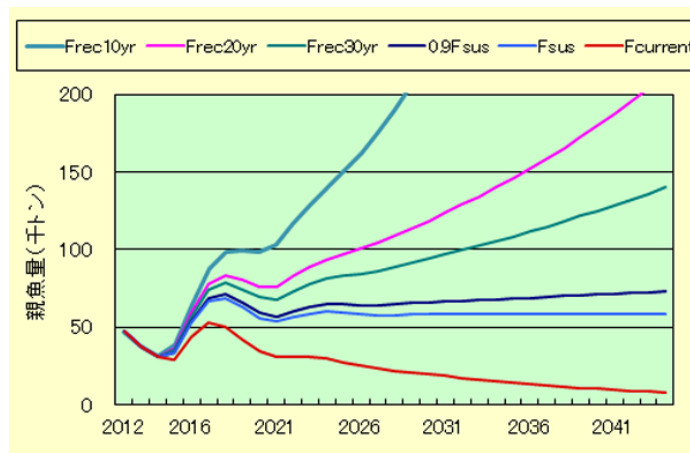


<http://abchan.job.affrc.go.jp/digests25/html/2510.html>

管理目標 (ABC 設定の目標) の変遷

- 2004 親魚量を  $B_{limit}$  20.7 万トンへ回復
- 2005 親魚量を  $B_{limit}$  14.0 万トンに維持 ( $B_{limit}$  変更は資源評価の修正によるもの)
- 2006 親魚量を  $B_{limit}$  18.1 万トンに10年で回復
- 2007 親魚量を  $B_{limit}$  18.4 万トンに15年で回復
- 2008 親魚量の緩やかな回復 (減った水準を基準に漁獲枠を設定)

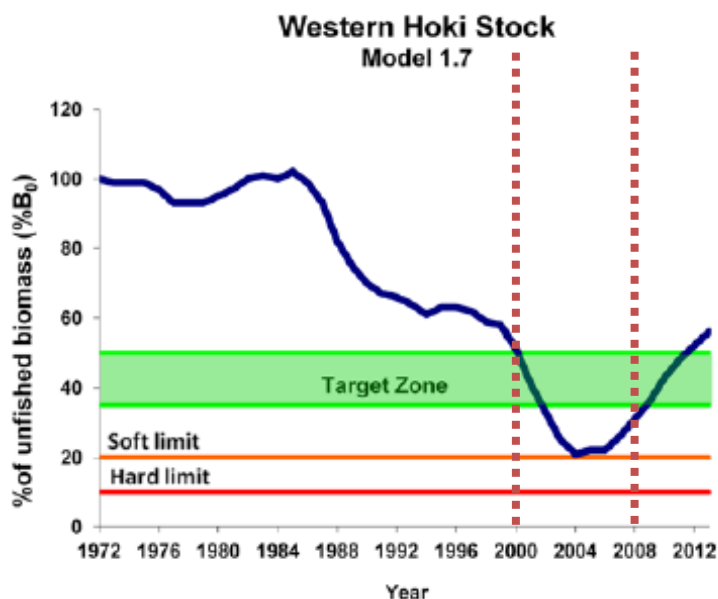
禁漁に近い措置をとれば10年で  $B_{limit}$  まで回復する



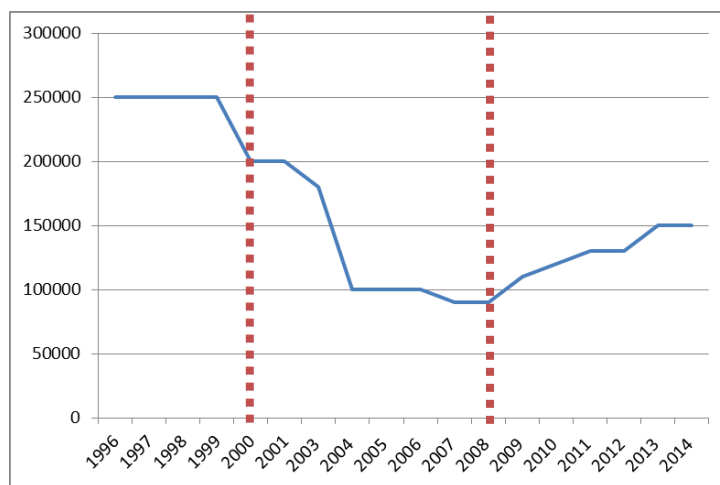
<http://abchan.job.affrc.go.jp/digests25/html/2510.html>

### NZ のホキ漁業の事例

タラに似た自身魚。ニュージーランドの主力漁業。フィレオフィッシュの原料として、世界中で利用されている。1990年代後半から、卵の生き残りが悪く、資源が減少した。NZ政府は40%B<sub>0</sub>付近を管理目標 (Target Zone) としている。20%B<sub>0</sub>をソフトリミット(回復措置発動の閾値)、10%B<sub>0</sub>をハードリミット (強い回復措置の閾値) としている。

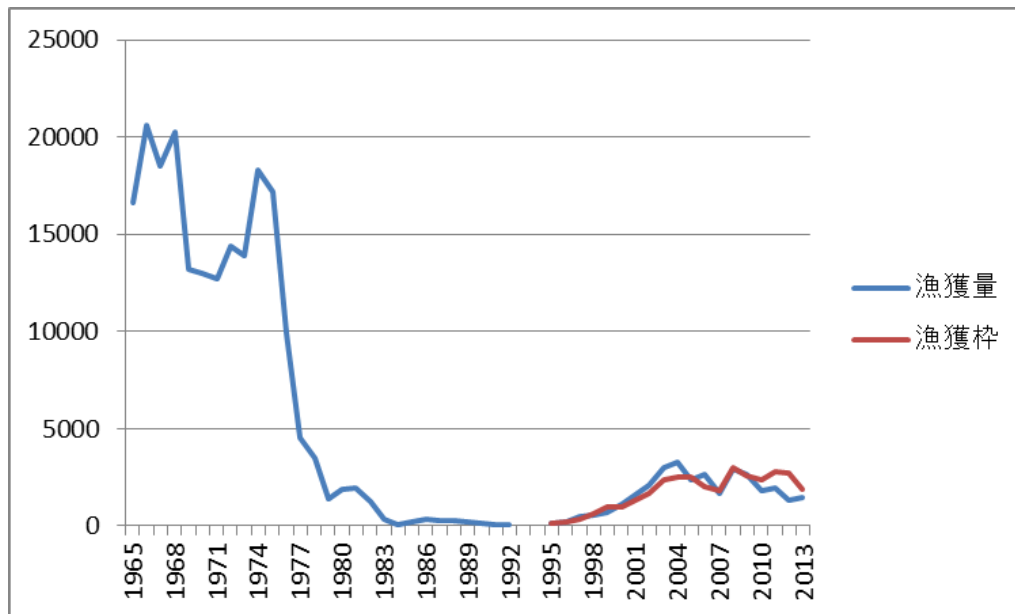


2000年に資源量がターゲットゾーンに入ると、NZ政府は漁獲枠を削減した。その後も、資源の減少が続いたために、漁獲枠の削減を続けた。2007年には、資源回復の兆しが見えてきたことから、政府が12万トンの漁獲枠を提示したが、業界は資源を素早く回復させるために更なる漁獲枠の削減を要求し、漁獲枠は9万トンまで削減された。現在は資源が回復したため、漁獲枠は15万トンまで増加している。



### 秋田県のハタハタ

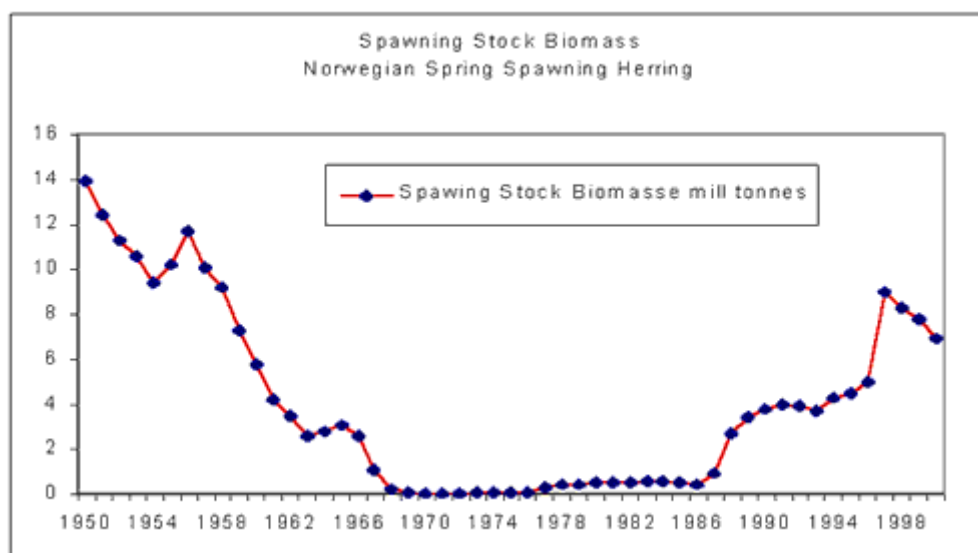
2年間の自主禁漁で資源を回復させた成功事例として知られている。2013年の資源量は中位、現在は低位と分類されている。分類の根拠は漁獲量3000ト。



<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1226650318985/files/hatasuii.pdf> より引用

### ノルウェーのニシン (春産卵群)

乱獲により資源が減少→90年代後半まで大型船禁漁→現在は巻き網の主収入源



[http://www.regjeringen.no/en/archive/Stoltenbergs-1st-Government/fid/Taler-og-artikler-arkivert-individuelt/2001/how\\_to\\_maintain\\_sustainable\\_fishing.html?id=264605](http://www.regjeringen.no/en/archive/Stoltenbergs-1st-Government/fid/Taler-og-artikler-arkivert-individuelt/2001/how_to_maintain_sustainable_fishing.html?id=264605)